

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 003	提案機関名 三浦市農業協同組合
要望問題名 ダイコン・キャベツ作付体系でのダイコン栽培における菌核病予防対策の検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ダイコン12月どり、1月どり、2月どり栽培において、菌核病の発生と防除に関する生産者の相談が増加している。近年のキャベツ栽培における菌核病多発が原因と考えられるが、ダイコンで使用できる殺菌剤のなかには、菌核病に対する同時防除効果が期待できると思われる薬剤が少なく、発生が懸念されるほ場での防除対策、特に薬剤を利用した予防的対策に限界がある。 そこで、ダイコンで使用できる薬剤のうち、例えば白さび病防除薬剤による菌核病の同時防除効果や、ネグサレセンチュウ防除に使用する薬剤による、畑の菌核病菌密度の低減効果に関する評価をしていただきたい。また、主目的病害に対する薬剤使用時期が、菌核病発生に対する影響に関して評価していただきたい。 さらに、同時防除として菌核病に対して効果が期待できる薬剤について、菌核病防除を主目的とした場合の効果的な使用時期の検討もあわせてお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	三浦半島地区事務所研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	キャベツの根こぶ病防除の観点からは、ダイコンとの輪作は有効な方法ですが、前作のキャベツで菌核病が多発した圃場では、ダイコンへの感染が危惧されます。菌核病の感染経路は前年に発生し土壤中に残存した菌核が次年度の感染源となるため、殺菌効果のない殺センチュウ剤では効果は期待できません。散布剤による防除は残存菌核から発生する子のう胞子の感染過程に対するものなので、同時防除が可能な薬剤であっても、一定の散布回数が必要と考えられます。一方、キャベツの菌核病に登録のある薬剤の中には、菌核病感染株を畑にすき込む際に散布することにより、病原菌を不活化するものがあり、病原菌の生態を考慮すると有効な防除方法と考えられます。なお、既存の殺菌剤の登録拡大や新規薬剤の登録に関わる情報があればお繋ぎします。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			